

会 議 録

開催日時	令和6年度 第1回 子どもの読書活動推進計画(第4次)策定委員会
開催日時	令和6年5月21日(火)午後3時から午後4時10分まで
開催場所	加古川市役所 新館191会議室
出席者	<委員> 森委員、乾委員、伊東委員、山根委員、川口委員 <職員> 松尾教育指導部長、中川こども政策課長、笠原幼児保育課長、 西川幼児保育課担当課長、岡本社会教育課長(代理:西森担当副課長)、 岡本学校教育課長、藤尾中学校図書教育担当校長、 山崎小学校図書教育担当校長、松本中央図書館長、樽本加古川図書館長 <事務局> 中央図書館(田中副館長、又賀資料担当係長、川添事務担当係長、田杭司書)
会議次第	1 開会 2 委員等自己紹介 3 委員長選任 4 加古川市子どもの読書活動推進計画についての概要説明 5 子どもの読書環境実態調査について 6 子どもの読書活動実態調査アンケート結果について 7 議事 (1) 加古川市子どもの読書活動推進計画(第4次)素案について (2) 策定委員会等年間予定について 8 閉会
配布資料	1 策定委員等名簿 2 加古川市子どもの読書活動推進計画(第3次)概要版 3 【国】第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画の概要 4 【県】ひょうご子どもの読書活動推進計画(第5次)概要 5 第3期「かがわ教育ビジョン(加古川市教育振興基本計画)」概要版 6 子どもの読書環境実態調査実施状況【前回調査比較】 7 子どもの読書活動実態調査アンケート報告書まとめ 8 加古川市子どもの読書活動推進計画(第4次)素案1～3章 9 加古川市子どもの読書活動推進計画(第4次)策定スケジュール
傍聴人数	0名

審議等内容

1 開会

事務局より、資料の確認。

教育指導部長より、開会の挨拶。(挨拶後、退席。)

2 委員自己紹介(資料1)

事務局より、「策定委員会委員(以下、策定委員)」及び「子どもの読書活動推進連絡会委員(以下、推進連絡会委員)」についての説明後、策定委員、推進連絡会委員の自己紹介。

3 委員長の選任

事務局より、「加古川市子どもの読書活動推進計画策定委員会の設置に関する要綱」について説明後、委員長の選任依頼。

自薦・他薦ともになかったため、事務局案として、学識経験者である森美由紀委員を推薦。

異議なしとして、森委員を委員長として選任することに決定。森委員長より、就任挨拶。

(以降の進行は森委員長。)

(委員長挨拶)

4 加古川市子どもの読書活動推進計画についての概要説明(資料2～5)

事務局より、「加古川市子どもの読書活動推進計画(第3次)」、「第五次子どもの読書活動推進に関する基本的な計画」、「ひょうご子どもの読書活動推進計画(第5次)」、「第3期かこがわ教育ビジョン(加古川市教育振興基本計画)」についての概要説明を行った。

(質問無し)

5 子どもの読書環境実態調査について

事務局より、令和5年6月末から7月末にかけて、市内の小・中学校・高等学校、保育園・幼稚園・子ども園・子育てプラザを対象に行った「子どもの読書環境実態調査」について、資料に基づき要点説明を行った。

(質問無し)

6 子どもの読書活動実態調査アンケート結果について

事務局より、令和5年6月末から7月末にかけて、児童、生徒及び保護者に対し、読書に対する意識や読書実態を把握するため実施した「子どもの読書活動実態アンケート調査」について、資料に基づき要点説明を行った。

(質問無し)

7 議題

(1) 加古川市子どもの読書活動推進計画(第4次)素案について(資料8:1～3章 素案)

事務局より、加古川市子どもの読書活動推進計画(第4次)素案について、資料に基づき要点説明を行った。

(質問無し)

(2) 策定委員会等年間予定について(資料9:子どもの読書活動推進計画(第4次)策定スケジュール)

事務局より、策定委員会等年間予定について、資料に基づき要点説明を行った。

委員:具体的に8月までに委員としてどういうことをやっておけば、今後の話し合いが効果的に行われるのかをお尋ねしたいのと、議題(1)で説明があった第4次から追加する目標設定について、具体的に「どのような目標が、どうなれば良い」という点に関して、たたき台的なものがあるのか、それとも8月から考えていくのかを教えてくださいたいと思います。

事務局:今回の第1章から第3章のように、事務局から案を提出させていただきますので、それをたたき台に事前検討の上、第2回策定委員会にて、意見等を述べていただきたいと思います。

数値設定に関しても第5章を新たに設けたいと考えています。今までは数値目標がなかったため、どのような数値目標を設けるのかを考えていく必要がありますが、それも素案として提出させていただきますので、あわせてご検討をよろしくお願いします。

委員長：第3次子どもの読書活動推進計画を実行した中で、課題や反省点を事務局である中央図書館や市の各部局がどのように把握されているのか、その課題点が第4次、特に目標設定に反映されてくることになるので、教えていただきたいと思います。

事務局：令和3年度から4年間の計画期間中にコロナが始まり、対面での活動がかなり制限されてしまい、学校等とかの図書館も含めて、集会行事等も難しくなりました。図書館に借りに行くことや入館人数を制限したり、学校図書室に入れないようにされた学校等もあったのではないかと思います。今後の目標設定にも関わってきますが、コロナ前に戻すことができたらと図書館では考えています。

委員長のご挨拶にもあった、印刷メディア以外の電子メディア化の対応についても、課題として考えています。昨年度から GIGA の端末を使いまして、図書館の電子図書館の方に読み放題というコンテンツを設けております。昨年は 50 タイトルという、少ないタイトル数でしたが、今年度からは合計 172 点のタイトルで、中学生向けのものを一部用意し、読み物以外にも図鑑や色々な種類の本で、様々な子どもの読書に答えられるように準備しており、そのあたりも、上手に活用できるように検討していきたいと思います。

委員長：電子図書館の利用率や周知具合について、数値的な状況とかがあれば教えてください。

事務局：読み放題のコンテンツ利用については、昨年度では小学生だけに提供しましたが、今年度からは、小学生と中学生も対象に、図書館の方で ID とパスワードを、学校を通じてお渡ししました。この1ヵ月の利用率については、小学生は比較的に利用されているようですが、中学生はまだなじみがないのか、まだ低いようです。
具体的な数字として、今年度4月のログイン回数において、小学生が 1,682 回に対して、中学生が 169 回でした。

委員長：GIGA スクール構想による 1 人タブレット端末 1 台の環境の中で、子どもが電子図書館等に非常にアクセスしやすい状況になってきていると思いますが、図書館からのように広報や PR が発信されているのか、どのように相互連携をされているのか非常に気になっています。

GIGA スクールにおける電子図書館の意図や PR 方法について教えてください。

事務局：本市教育委員会には校長会というものがあり、中央図書館から資料の提出や説明をした後、各学校のご協力のもと、保護者一人一人に、電子図書館の読み放題コンテンツに関する案内をお届けしています。ただ、別の PR も考えていかないと、それを渡しきりになり、学校現場でどのような反応があるか見えていない部分もありますので、ご意見を参考に、情報発信に努めて参りたいと思います。

委員：次回は第4章を検討するということですが、今回の第1から第3章までは、どうなりますか。

事務局：今お目通しいただいている中で、この場でご意見いただけるものは持ち帰らせていただきたく思います。これから作っていくものですので、ご意見は次回でも結構です。

委員：本来第3次を受けて第4次を考えていく上で、現在子どもの読書活動が減少傾向に全国的になっているため、コロナ以前に戻すというより、加古川市の子どもたちが、より図書館等を活用しながら読書活動を楽しめるような新しい切り口の取り組みというのが必要になるのではないかと思います。このままですと、どんどん子どもの数も減り、デジタル化も進んでいきますので、人生を豊かにするために、子どもたちの読書活動ひいては加古川市の大人全部も含めて楽しく読書活動ができる内容を第4次の計画に盛り込めればと思います。コロナのことは大きな影響はあったかとは思いますが、そうでなかったとしても第3次の内容で本当に良かったか、何か足りないことはなかったか、基本的な考え方や取り組み状況にも、さらに盛り込む必要性を感じましたので、次回の第4章に加え、第1から第3章に関しても今後検討していきたいです。

委員長：先ほどのご意見にありましたとおり、第1章から第3章までの部分について、今日の中で議論を終えるというのは非常に難しく、次回に議論を深めていきたいと思っています。その他いかがでしょうか。

（その他意見無し）

委員長：それでは、議事の方は以上になります。

その他、皆様より何か情報交換及び全般について、意見がありましたらよろしく 願います。

社会教育課：この4月に新しく開校した両荘地区の義務教育学校の学校図書館を、初めて地域開放をしています。中央図書館から見ると館外サービスポイントという位置付けもされており、また、みらい学園の地域開放スタッフが週に2回みらい学園の本来の学校図書室の方に学校司書として活動もしていますので、第4次計画には何らかの形で盛り込んでいただければと思っています。

ただ、開館したところなので、計画が策定される時点で、利用状況のような具体的なデータをどこまでお出しできるかについては改めてご相談させていただきたいと思っています。

委員長：学校図書館の地域開放は全国的にも大変珍しく、今後も状況について教えていただきたく思います。

委員：確かに本を読む冊数や、図書館の備品を整備することは非常に重要なことですが、

読書というのは、手段であり目的ではありません。子どもたちが生き生きとするには、体験したり、或いは面白さを感じたりしてもらいたいというのが目的で、そのために、読書や読み聞かせ等、色々な方法があると思います。子どもたちが未体験のことを人から聞いたり、読んだり、自分の経験にしていって、多様なことができるきっかけになるものがあればと思います。

統計的には難しいでしょうが、本の数等にそれほどこだわらなくても、子どもたちが何を欲しがっているのか、どうしたら子どもたちの豊かな心ができるのか、子どもたちに寄り添ったことを考えながら様々な施策とか、意見を折り込んでいただければ、血の通った計画にならないかなというような気がします。

委員：私は小さな子どもたちに絵本を読み聞かせることが多く、自分の子育て時代には見られなかった、雨の日でも絵本を見に来てくださる素敵なお母さんたちを見ます。資料の中にアンケートを見ると、「絵本を読むことが大切である」ことをお母さんたちはわかっている2ヶ月、3ヶ月の子どもを連れてきてくれているのが、3歳4歳になってくると、お母さんたちの気持ちが薄らいでいくのか、それとも子どもたちが外で遊ぶのが楽しいのか足が遠のくようになっていきます。ただ、毎回のように来てくれたり、絵本の読みきかせをする日を狙って来てくれたりする人もいます。今回初めて委員になって、このような資料をいただき読んでいく中で、お母さんたちと子どもの本というのは難しいと感じました。

委員長：他に大丈夫でしょうか。

(意見無し)

委員長：本日の議事録は、要点議事録でしょうか。

事務局：要点議事録です。

委員長：それでは、本日の委員会はこれで終了させていただきます。